

JIP-COMPO Ver.8.00『道路橋示方書・同解説（令和 7 年）』への対応について

J I P テクノサイエンス株式会社

1. 概要

道路橋示方書・同解説（令和 7 年 10 月）改定に対応し、帳票出力機能を大幅に強化しました。今回のバージョンアップでは、新示方書の構成・表記に沿った計算書を自動生成できるようになり、成果品として求められる体裁により近い形式で出力することが可能です。

これにより、従来は手作業で行っていた書式調整やレイアウト整理の工数を削減し、設計業務の効率化と成果品品質の向上を同時に実現します。

2. 改定内容

(1) 特徴

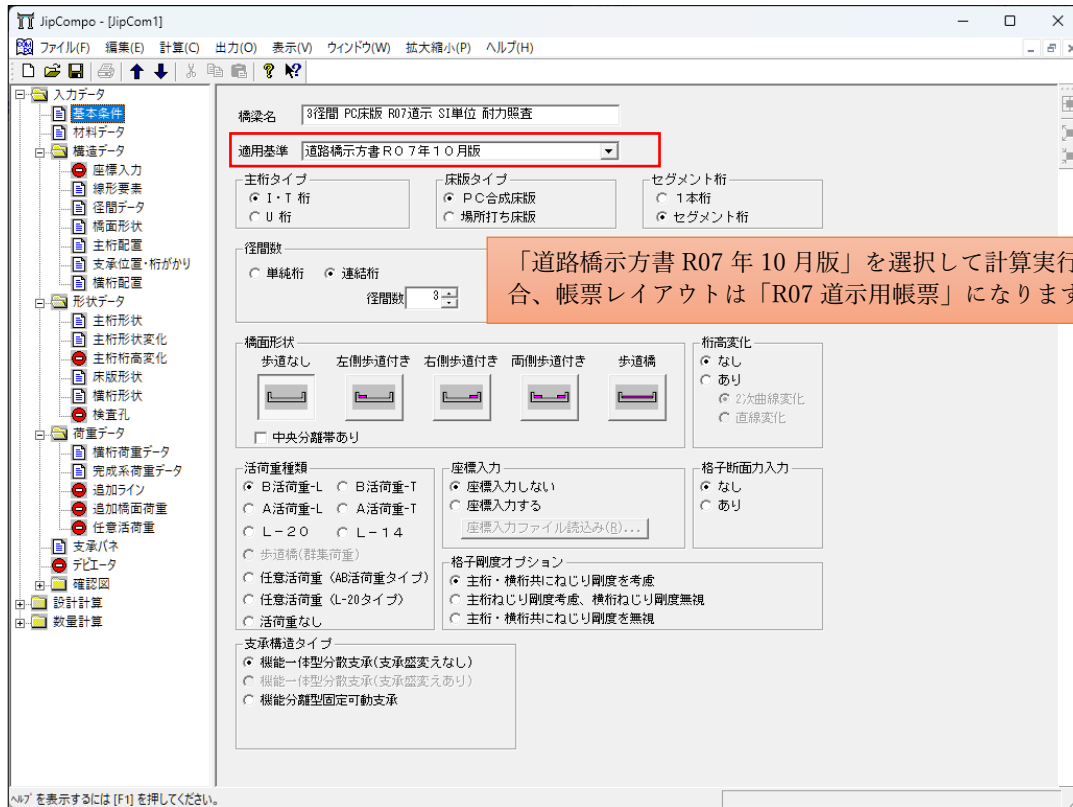
- 新示方書に準拠した帳票を自動生成し、提出資料作成を効率化
- 成果品の体裁調整を削減し、設計業務の生産性が向上

平成 29 年道路橋示方書	令和 7 年道路橋示方書
7. 主桁の設計(設計主桁 G4桁) 7.1 曲げに対する検討 7.1.1 形状寸法 7.1.2 設計断面位置 7.1.3 P C 鋼材の配置 7.1.4 断面諸定数 7.1.5 各設計断面における断面力 7.1.6 プレストレスの計算 7.1.7 二次断面力 7.1.8 曲げ応力度に対する検討 7.1.9 引張鉄筋の計算（耐荷性能照査、耐久性能照査） 7.1.10 曲げ破壊に対する検討 7.2 セン断に対する検討 7.2.1 設計計算式 7.2.2 各断面における設計断面力 7.2.3 ウェブコンクリートの圧壊に対する耐力の検討 7.2.4 斜引張応力度の検討 7.2.5 斜引張破壊に対する耐力 7.2.6 軸方向鉄筋の計算 7.2.7 桁と床版の接合の設計	7. 主桁の設計(設計主桁 G4桁) 7.1 耐荷性能の照査 7.1.1 形状寸法 7.1.2 設計断面位置 7.1.3 P C 鋼材の配置 7.1.4 断面諸定数 7.1.5 各設計断面における断面力（曲げ検討用） 7.1.6 各断面における設計断面力（せん断検討用） 7.1.7 プレストレスの計算 7.1.8 二次断面力 7.1.9 設計計算式（せん断検討用） 7.1.10 各荷重曲げ応力度 7.1.11 前提条件－曲げ応力度 7.1.12 前提条件－斜引張応力度 7.1.13 限界状態1－曲げ応力度 7.1.14 引張鉄筋の計算（耐荷性能照査、耐久性能照査） 7.1.15 限界状態1－斜引張応力度 7.1.16 限界状態3－曲げ破壊 7.1.17 限界状態3－圧壊耐力 7.1.18 限界状態3－斜引張破壊 7.1.19 軸方向鉄筋の計算 7.1.20 桁と床版の接合の設計 7.1.21 特定の荷重組合せ 7.2 耐久性能の照査 7.2.1 曲げ応力度 7.2.2 P C 鋼材応力度の検討 7.2.3 斜引張応力度

3. JIP-COMPO の対応

(1) 入力機能の追加

(ア) 適用基準に「道路橋示方書 R07 年 10 月版」を追加



(2) 出力機能の変更

(ア) 帳票出力コントロール「主桁の設計」の出力項目の変更

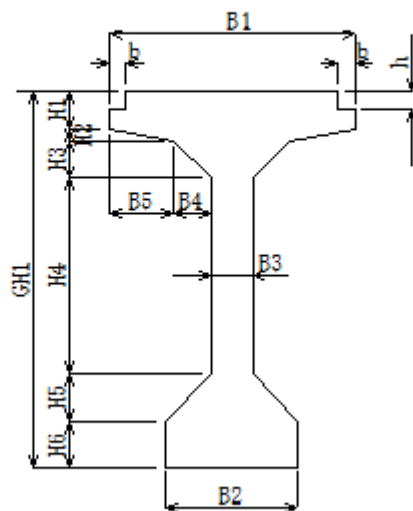


(イ) 計算書出力イメージ

7. 主桁の設計(設計主桁 G4桁)

7.1 耐荷性能の照査

7.1.1 形状寸法



7.2 耐久性能の照査

7.2.1 曲げ応力度

・耐久性(疲労)

	SEC-101 (N/mm ²)			SEC-102 (N/mm ²)		
	床版上縁	主桁上縁	主桁下縁	床版上縁	主桁上縁	主桁下縁
耐久性(疲労)	(σ _{sa} <11.00, -1.80<σ _{ga} <16.00)			(σ _{sa} <11.00, -1.80<σ _{ga} <16.00)		
[601]	0.245	2.701	3.735	0.731	3.303	3.046
[602]	0.037	2.506	4.107	0.280	2.882	3.877